

備前市施策評価シート

(平成19年度事業)

施策名 (小項目)	図書館・視聴覚ライブラリー	コード	03-02-05	作成者	役職	図書館長
				氏名		松本武彦
				電話		64-1133

備前市総合計画の内容から記載する

政策の体系	大項目(基本目標)	地域文化と人が輝くまちづくり
	中項目(基本施策)	生きがいのあるまちづくり
① 施策の対象と目的 (誰のために、何のために)	豊富な資料や知識、様々な情報を提供する学習施設として、利用の場を提供する。	
② 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	図書館は、本館と吉永日生分館の3館で、本館は市民センター内、日生分館は日生市民会館内に、吉永分館は吉永支所別館に、それぞれ併設されており。各館とも閲覧室が狭く、開架図書も制限があり、広い場所が望まれている。また、合併により遠隔地が増えたため、図書の貸し出し活動の充実を図る必要があり、移動図書館車により、島を始め市内各地へ運行しているが、運行回数が少ないことから、一層の活用を図りたい。	
③ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の充実 視聴覚ライブラリーの充実 	

④市民意識調査による施策の重要度・満足度

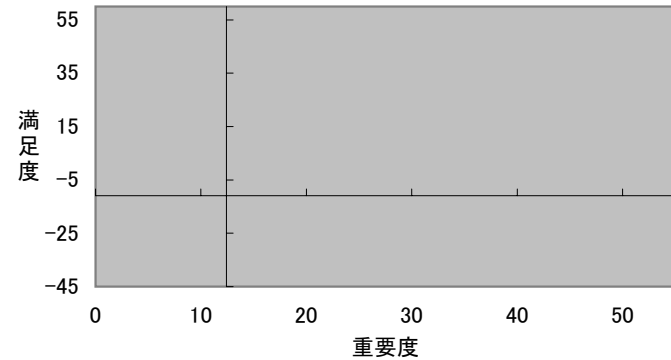
調査年度	H19	H20	H21
重要度(%)			
満足度(%)			

<見直し領域>
その施策や事業が必要か否かの検討が必要

<維持領域>
現状の方向を継続

<検討領域>
その施策や事業の存続の検討が必要

<強化領域>
内容等を見直し、市民満足度を高める事業を行う



調査結果に対するコメント、市民の反応等	市民意識調査では、図書館等に関する設問はないが、厳しい予算の中で、出来るだけ購入希望の新刊本を購入していきたい。レファレンスは多くあり、
---------------------	--

⑤ 施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績			目標値			ベンチマーク	指標の説明
		H17	H18	H19	H20	H23	H28		
1 1人あたりの貸し出し冊数	冊	4	4	4	3.5	3.5	3.5		人口1人あたりの図書貸出し冊数
	実績	2.7	3.0	3.37					
	達成率	67.5	75.0	84.3					
2 視聴覚機材の貸出し団体数	団体	230	230	230	120	120	120		教材の使用団体数
	実績	177	126	102					
	達成率	77.0	54.8	44.3					
3	目標								
	実績								
	達成率								
4	目標								
	実績								
	達成率								

⑥ 施策構成事務事業の評価

施策を構成する事務事業	事務事業評価結果 A~E (高~低)	細事業	事業分類	事業費等(単位:千円,人)									H20 当初予算 直接事業費			
				H17			H18			H19						
				直接事業費	人件費	人工数	直接事業費	人件費	人工数	直接事業費	人件費	人工数				
1	図書館運営事業	B	図書館運営事業	内部管理	17,938	10,412		24,165	16,235		16,486	14,876	4,86	☆☆☆	\$\$\$	14,713
			県図書館協会負担金	その他単市	11			11			9			☆☆	\$\$	12
2	視聴覚ライブラリー運営事業	D	視聴覚ライブラリー運営事業	内部管理	420	2,910		341	3,360		216	894	0.15	☆	\$	139
			県AVL連絡協議会負担金	その他単市	7			7			7			☆	\$	7
この施策に費やした資源(単位:千円,人)					H17			H18			H19			H20当初(直接事業費)		
					18,376	13,322		24,525	19,595		16,718	15,770	5.01			14,871

⑦ ⑥以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
市内小中学校	図書館と学校の司書との情報交換を行う	児童生徒の図書に対する情報を得て、図書購入の際に参考とする。

⑧ 施策の評価

項目	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い			
	一次評価		二次評価	
	評価	判断理由	評価	判断理由
1 目的達成度 (中・長期目標に対する)	3	昨年より、貸出し冊数並びに年間入場者数も大幅に増えたことから、達成可能な数値である。逆にライブラリー教材の活用は大幅に減ってきている。最近では学校関係者と行政の利用のみなので伸びは期待できないので修正した。	3	図書館事業については、図書の年間貸出し数や入館者数、あるいは読書啓発行事参加者数等が大幅に上がっている。視聴覚ライブラリー事業については、貸し出しが減少しており、利用者も限られている個々から目標値の下方修正もやむを得ない。
2 事業構成の適当性	3	今後も図書館の利用促進を図る上で図書館運営事業は必要である。その中で特に、県立図書館や他館の資料が活用できる横断検索システムに関する情報提供や移動図書館車の活用に一層力を入れていきたい。ライブラリー事業は、ビデオ等の利用はほとんどないが、機材の利用はあるので、今後は、その維持管理に重点をおいていきたい。	3	同左
3 施策の有効性 (評価年度の目標達成)	4	図書の貸出す冊数並びに利用者数は大幅に伸びたことから、今後も引き続き継続していきたい。ライブラリー事業については、見直しも止む終えない。	3	図書貸し出し数は増加傾向にあり、施策は有効に成果を上げている。なお、成果指標に現れていないが、利用者層の分析を行った結果を考慮し、利用の少ない世代への取り組みを検討する必要がある。ライブラリーについては同様である。
担当への指示 (今後の展開・協働の可能性・事業見直し・新規事業創出等)	図書館事業では、更なる貸出し数や利用者増を図るため、さらにレファレンスや窓口での親切丁寧な対応に心がけるとともに、横断システムの広報などを行う。また、移動図書館車の活用増大を図るため、今の運行を見直す。ライブラリー事業については、現状の機材の維持管理に重点を置く。		図書館運営事業で、貸し出し数や利用者等が大幅に増加しているが、これまでの読書推進事業に加え、新たに実施したイベント「一日子どもフェスティバル」や「本を読もうよキャンペーン」などが大きな要因の一つである。今後も、読書に親しむきっかけ作りになる事業実施に努め、図書館の充実を図る必要がある。	
二次評価者コメント	県立図書館や他地域の図書が借入れ可能な横断システムの有効活用を図るため、市民へ制度の周知、広報活動に努める必要がある。同時に、図書館充実のため新刊図書の購入も必要不可欠であり、年々減少する図書費購入予算の見直しも必要。			基本施策への貢献度
役職 教育次長 氏名 山本 健次				3中立